

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

331号

2018年9月号

자주

発行 在日韓国民主統一連合
(韓統連) 大阪本部

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1日発行 購読料 年間3000円

郵便振替 00940-7-314392

民族時報社 大阪支社

すべての離散家族の再会を願う！

8月20日から第21回南北離散家族再会行事が金剛山で行われた。これは先の文在寅大統領と金正恩委員長による南北首脳会談での「板門店宣言」の合意によって実現されたものだ。南北分断の象徴とも言えるこの離散家族問題は、時間の経過からも早急な解決が望まれており、全民族の知恵とあらゆる努力と決断をしなければ、将来にわたり歴史と民族の汚点となりかねない。生き別れて高齢となった夫婦や親子、

兄弟の再会シーンを見るたびに感動で目頭が熱くなり、高鳴る胸が嬉しさともどかしさで複雑な状況になる。

前回の第20回行事が3年前の2015年10月だったことを思うとき、今回の開催は万感の思いで歓迎・祝福されるものであり、今年10月に予定されている第22回再会行事が今から待ち遠しい。

ちなみに現在のような形で再会行事が行われるようになったのは、2000年の6・15共同宣言以降であり、それ以前は皆無に等しく、いわば政権の延命道具にされていた。

多くの離散家族の人々が、朝鮮戦争を契機に南北それぞれに別れて暮らし、65年が過ぎた。韓国統一部によると、1988年からの離散家族の登録現況は約13万人弱だが、現在までにその半数近くの人が死亡している。また、生存者のうち80歳以上が半数以上を占め、離散家族の高齢化が言われて久しい。統一部の試算でも年間3千人～4千人が死亡しているとされ、10年後には、今のような形態での再会行事は難しいとさえ言われている。そして現状のように一回の行事で10

0家族程度のペースでは、到底全員に追いつくことはできず、抽選で選ばれる確率も0.1%とされ、まるで宝くじのようだとも言われている。

時間が無くなりつつある中、今後は何よりも優先的に南北が特段の合意を重ねながら、積極的に再会行事が行われ、すべての離散家族が再会できることを願うものである。また、再会の形態についても幅広く考慮されるべきで、一部で進められて

いる映像での再会ももっと積極的にすればいいだろう。一回の再会行事での参加規模を拡大することはもちろん、合同で大規模な祭祀をやろうという案もある。また、金剛山に常設会場を建設する動きもあるようだが、文大統領も提唱しているように、常設的に再会できる制度的な保証が必要で

ある。常設会場が、板門店や開城(ケソン)にあれば、いつでも行くことができ、手紙の発送・授受から安否や消息の確認とともに電話による会話も可能となる。またそこに至る交通手段や施設や設備の整備を進めることによって、その地域の経済を活性化させるだろうし、まさに南北の平和と繁栄の具現化に向けたものとなるだろう。

今後、南北関係の融和と交流が進み、朝鮮半島の平和と協力関係が推進される時、離散家族問題をはじめとする多くの諸懸案が同時に解決されていくものと確信する。

南北が「対立から共存へ」「分断から統一へ」新たに大きな一歩を踏み出した今年2018年は、歴史的な年となるでしょう。着実に進展する歴史とともに手を携えて歩んで行きましょう。(啓)



▲抱き合いながら再会を喜ぶ離散家族

朝米首脳会談後の朝鮮半島情勢と 韓青夏期講習会の成果を共有する 光復73周年在日韓国人関西集会

光復73周年を迎え、韓統連関西協議会の主催で「光復73周年 板門店宣言を熱烈に支持し、自主統一を成し遂げよう！在日韓国人関西地域集会」が8月19日（日）、学働館（大阪市西区）で開かれた。

集会では、金隆司（キム・ユンサ）韓統連大阪本部代表委員が主催者挨拶を通じ「73年前、私たちの祖国は日帝の植民地支配から解放されたが、直後に祖国の分断という悲劇が起きた。今日の集会は私たちの悲願である祖国統一の実現に向けて今、私たちが何を成すべきかについて考えていく場としよう」と語った。

次に、韓国内で開かれた光復73周年行事とソウルで開かれた南北労働者統一サッカー大会の映像資料が上映された後、孫亨根（ソン・ヒョングン）韓統連中央本部議長が情勢講演を行った。



▲情勢講演を行う孫亨根議長

孫議長は朝米首脳会談後の情勢について「北朝鮮は、核実験場の廃棄など米国との関係改善に向けた措置を迅速に取っているにもかかわらず、米国側は“先非核化”を理由に関係改善に向けた行動をとっていない」と指摘、「米国は行動対行動の原則に基づき、早期の行動を取るべきだ」と主張した。

そして「9月にはピョンヤンで南北首脳会談が開かれるという重要な局面が控えており、我々も継続して板門店宣言、朝米共同声明の履行を訴えていこう」と語った。

講演終了後は、活発な質疑討論が行われ、続いて、李俊一（イ・チュニル）韓青中央本部副委員長が「光復73周年韓青故国訪問団」と「2018ソ

ウル夏期講習会」の活動報告を行った。李副委員長は画像などを活用しながら、韓青故国訪問団は、光復73周年を記念する各種行事に参加して連帯挨拶などを通じ、日本で自主・民主・統一運動の先鋒隊として活動する韓青の存在と「板門店宣言」を履行していく決意を訴え、ソウルで初めて開催した夏期講習会では、歴史紀行を通じて祖国の歴史を学び、国内青年団体との交流を深めることができたことなどが報告され、活動の成果を共有した。

そして集会では、各団体代表による決意表明と決議文の採択が行われ、最後に崔孝行（チェ・ヒョハ）韓統連兵庫本部代表委員が閉会辞を述べ、この日の集会は終了した。

民族教育の権利を認めなければならない 前川喜平氏講演会

大阪朝鮮高級学校オモニ会の主催で「前川喜平氏講演会～民族教育権と『教育の機会均等』」が8月25日（土）、クレオ大阪南（大阪市平野区）で開かれた。

前文部科学事務次官の前川氏は、高校無償化の制度化に携わった自身の経験を振り返り「当初は朝鮮高校も高校無償化の対象とされていたが、民主党内の反対派に押し切られ、対象から外されてしまった」と経緯を語った。

続いて、個別審査制度により無償化が適用される道が開かれるも、審査作業の凍結や遅滞によりいつまでも適用が認められず、自民党政権の発足により朝鮮学校が不指定処分とされたことについて「審査がすでに始まっていた段階で、後からの条項削除により門前払いとしたことはありえない事だ」とその問題性を指摘した。

最後に、昨今の「教育勅語」「皇国史観」が復活しつつある動きに強い懸念を示し、「民族純粋主義では日本はいつか滅んでしまう。海外からの人々の人権を保障して受け入れなければ未来はない。民族教育の権利はしっかり認められなければならない」と主張した。

最後にオモニ会がアピールを通じ、高校無償化裁判の控訴審判決言い渡ししが9月27日に大阪高裁で行われることを訴え、報告集会への参加を呼びかけた。

韓青ソウル夏期講習会2018活動報告①

8月13日～16日まで、韓青全国夏期講習会が初めてソウルで開かれました。ソウルでの夏期講習会の報告を趙映和(チョ・ヨンファ)韓青大阪府本部委員長に書いて頂きました。今号と次号の連載で掲載します。

前回の予告通り、8月13日～16日にかけて開催された韓青全国夏期講習会のご報告です。今回はその第1回目です。

13日の午後2時に全国からの参加者が仁川空港に集合し、そのままバスに乗って車内で開会式を行いました。その後、南山の国際ユースホテルでチェックインを済ませた後、向かったのは南営洞人権博物館です。かつて南営洞対共分室が置かれ、多くの民主人士が拷問で命を落とした場所は警察庁によって人権博物館となっています。1987年、当時ソウル大学生だった朴鐘哲(パク・ジョン Chol) 烈士が水拷問で亡くなった取調室は当時のままの状態で見守られ、追悼の場となっています。



▲三一門前での記念写真

その後、向かったのは3・1独立運動で有名なタプコル公園です。バスを降りて向かってみると、「あれ、三一門の扉が開かない」。午後6時を超えて閉園したとのこと。仕方がないのでとりあえず三一門の前で記念撮影し、おいしい夕食を頂き、各チームで明洞を散策。ソウルでの1日目はそのように過ぎました。

14日朝、午前8時に宿舎を出て、バスはソウル市を出て北に向かいDMZへ。現地で活動されている方の説明を聞きながら、民統線を越えて(途中兵士がバスに乗り込み全員のパスポートを

チェック) 都羅山(トラスン) 駅まで入りました。ここまで来ると現地の方々はほとんどおらず、外国人観光客がほとんどだった今までとは違い、今回は現地の、特に子どもたちの遠足(?) のような団体がちらほら。なんとなく「時代が変わったのかなあ〜」と感じました。統一展望台で見た映像資料の反共反北ぶりは相変わらずでしたが。



▲都羅山駅でポーズをとりながら記念写真

昼食後、ソウル市内に戻って向かったのは4・19民主墓地。4・19精神の継承を掲げる私たちにとって、この場所は聖地にもたとえられます。さらに今回は、当時4・19革命を共に闘った先生から当時の様子を直接耳にすることができました。墓地に入って全員整列して黙祷を捧げ、その後、博物館で映像資料を見ることもできました。説明をしてくださった先生への感謝の意を込めて、全員で「4月の若き獅子たち」を熱唱し、先生をお見送りした後は、バスで一旦宿舎に戻って打ち合わせ。そして、お待ちかねの夕食は、なんとサムギョプサル! 祖国で食べるサムギョプサルと焼酎はまた格別でした。気分が乗ってあっちへ、こっちへ忙しく席を回りながら酒を注いで乾杯、その繰り返し……。その勢いのまま宿舎に帰っても酒を持ち込み2次会開始! 盛り上がりました。

※次回は15日～16日の旅程について報告します。お楽しみに!

東アジアの平和連帯キャラバン イン韓国

全日本建設運輸連帯労働組合近畿地方本部
書記長 西山直洋

8月9日～16日まで、日韓平和連帯の皆さんを中心に「東アジアの平和連帯キャラバン イン韓国」が構成され、各種行事に参加しました。訪韓報告を、全日本建設運輸連帯労働組合近畿地方本部の西山直洋書記長に書いて頂きましたので、紹介します。

2018年8月9日から韓国にキャラバン隊を派遣した。目的の一つは10日から11日にソウルで開催される「8・15自主統一大会」に日本代表団として参加するため、朝鮮半島の平和統一を願うため、また逆行するかの如く日本での沖縄問題をはじめ戦争への道が激化してきていることを共有化するため、東アジアの真の平和を求めるとのキャラバンを今年も東アジアに発信していくことです。

9日の晩、下関港をフェリーで出発。10日の朝、釜山に入港してはじまったキャラバン隊は、一路ソウルへ約430kmの道のりで無事到着。ソウル市のソウル市議会大会議室では早速「第6回コリア国際平和フォーラム」が開催されていました。このフォーラムは韓国進歩連帯や民主労総等多くの団体が主催者側に名前を連ね、韓国では大きな枠組みで東北アジアの平和と繁栄、そして統一へと進む道を切り開いていくためのフォーラムになりました。このフォーラムでは、日本側からも日本の現状報告と平和に向けた運動の基調を報告するとともに、今回は朝鮮学校差別に対しての不屈の闘いが報告されました。

翌日は「8・15自主統一大会」とデモに参加するためソウル市庁前へ向かいました。ソウル市庁前では、民主労総金属労働組合の「双竜自動車解雇労働者の復職をこれ以上遅らせるな」と「被害者の死は、当然国に責任がある整理解雇と国家暴力の加害者は何の対策も出していない」と政府を糾弾し、闘っているろう城テントに出向きました。

双竜自動車の闘争によって亡くなった同志達に献花するとともに、この闘いへの連帯を確認し合いました。

その後、自主統一大会では前段でプレスセンター前での特設コーナーで作られた「統一ビビンバ」を参加者に振る舞い、本集会へ。毎年8月15日に日本の植民地支配からの解放(光復)を記念するとともに、今も続く南北分断体制を変えるための大会として取り組まれてきましたが、今年は

8月11日に集会を行うことになりました。「板門店宣言実践 8・15自主統一大行進」と書かれた横幕を先頭に、集会終了後には、ソウル市庁前から光化門にある駐韓アメリカ大使館に向けたデモ行進を行いました。

今回、この行動後に

は、南北労働者サッカー大会がソウルワールドカップ競技場で開催されるため全国各地から労働者も結集しました。

次の日には、キャラバンカーをDMZ(南北分断の軍事境界線。南北それぞれ2kmの地域のことをいう)まで走らせ、日本から平和のためのキャラバンとして来た車が、このDMZ内に突入しました。そこにある道路標識には「ここから平壤まで208km」と示されており、南北の統一も間近だと感じさせられました。

今年もキャラバン隊は、日本と韓国の労働者、民衆が真の東アジアの平和統一に向けて前進していくことと、日韓連帯を通じて米軍のアジア侵略政策と闘っていかなくてはならないことを確認できたキャラバンとなりました。



▲キャラバン隊に参加したメンバーの記念写真

【投稿】 真の『過去清算』＝被害者の権利回復を 日朝交渉において実現させよう！

日本製鉄元徴用工裁判を支援する会 中田光信

韓国では「平和の少女像」に続いて強制連行被害者を象徴する「元徴用工像」がソウル市と仁川市、済州島に建てられ、今年5月には釜山の日本領事館前に像を設置しようとした市民団体を警察が阻止したが、光復節（8月15日）に500人規模の再設置をめざす集会が開かれた。日本ではこの像の建立運動が新たな日韓の「火種」として報じられている。

一方、2012年5月、韓国の大法院は日本に強制連行された元徴用工被害者が損害賠償を求めた裁判で「日本の不法な支配に因る法律関係の内、大韓民国の憲法精神と両立し得ないものは、その効力が排除される」「請求権協定は日本の植民地支配の賠償を請求するための交渉ではなく」「請求権協定で個人請求権が消滅しなかったのはもちろん、大韓民国の外交保護権も放棄されなかった」と判示した。



▲裏取引をした梁承泰元大法院長を糾弾する韓国の市民

この判決に基づいてその後、韓国内では多くの被害者が新たに裁判を起こし、下級審において被害者救済の判決が相次いだ。そして、この判決の翌年7月に新日鐵住金と三菱重工に賠償を命じる高裁判決が出され、裁判が再び大法院で審理されることとなってから5年間、裁判は「塩漬け」状態が続いた。

ところが今年5月に「司法行政権乱用疑惑に関連する特別調査団」が出した報告書に驚くべき事実が記載されていた。この審理の遅滞が梁承泰（ヤン・スンテ）元大法院長と日韓関係の悪化を懸念する外交部との裏取引によってもたらされていたことが暴露されたのである。そして、当時の政権中枢にいた金洪春（キム・ヒョンチュン）元大統領秘書室長や朴槿恵前大統領自身が関与していた疑惑も浮上した。この事態に98才になる新日鐵住金に強制連行された元徴用工の李春植（イ・チュンソク）さんは涙を流し「私が生きていうちに解決して欲しい」と訴えた。そして被害者支援の団体も関係者の処罰と大法院全員合議の大法廷に移された審理につい

て、前大法院長時代に任命された裁判官の辞職を求めている。

南北統一と朝鮮半島・東アジアの非核化への道は韓国・朝鮮両国の固い意思に基づき揺るぎないものとなっている。この情勢のもとで日朝交渉再開も時間の問題とされているが、安倍政権は今だに「拉致問題の解決なくして国交正常化はありえない」との主張を繰り返している。しかし、拉致問題も「慰安婦」問題や強制連行・強制労働とおなじく、その当時の国家による人権侵害（犯罪行為）であり、被害者の人権をどう回復するか、被害の真相究明、責任者処罰、被害者救済、再発の防止という国際人権法などに則った道筋で解決すればよい問題であり、あえて国交回復交渉とリンクさせる必要のない問題である。

日朝交渉の最大の課題は日本の植民地支配責任の問題である。2002年の「日朝ピョンヤン宣言」では「戦後補償」につい

て日韓条約とおなじ経済協力方式での解決が掲げられているが、宗日昊（ソ・イルホ）朝日国交正常化交渉担当大使は、2012年5月に訪朝団に対して「①「人的被害」（虐殺、強制連行、「慰安婦」等）②「精神的被害」（民族教育弾圧、創氏改名等）③「経済的損害」のうち、①②は財産権の範囲には入らないし、経済協力で片づくものではない。この被害は今日にも影響を及ぼしている問題であり、その賠償問題は、朝鮮人民が納得する形で解決されるべきものである。被害者抜きの植民地支配責任を曖昧にした解決は許されない」と発言したと伝えられている。

真に「過去清算」を実現させるには、植民地主義克服の道筋を示した「国連ダーバン宣言」を体現した2012年の大法院判決に則って、植民地支配暴力の被害者である元「慰安婦」や強制連行被害者の尊厳回復が成されなければならない。

◆パンフレット紹介◆

2018年激動ドキュメント 平和・繁栄・統一へと向かう朝鮮半島

編集・発行：韓統連中央本部／定価：300円

2018年も下半期に入っています。今年上半期、朝鮮半島情勢は大きな変化がありました。

2月、平昌オリンピックへの北朝鮮代表団の参加と女子アイスホッケー統一チームの構成。4月、文在寅大統領と金正恩委員長による第3回南北首脳会談と「板門店宣言」の合意・発表。6月、シンガポールで歴史上初めての朝米首脳会談と共同声明の発表などです。

このような朝鮮半島情勢を整理・分析したパンフレットが韓統連中央本部で作成されました。

パンフレットの特徴を紹介しますと、一つのテーマが見開き2ページで整理・紹介されています。例えば、4月の南北首脳会談と板門店宣言について、両首脳が板門店で初めて会った様子や板門店宣言の内容について紹介しています。



6月の朝米首脳会談についても同様に、会談の様子と共同声明の意義について紹介しています。

それだけではありません。パンフレットの後半では日朝関係の今後、朝鮮半島情勢の今後の展望について紹介しています。掲載されている写真はオールカラーです。

9月18日～20日まで、ピョンヤンで開催される南北首脳会談前に、この間の朝鮮半島情勢を整理するうえで、とても役に立つパンフレットです。ぜひ購入してください。韓統連大阪本部で取り扱っています。購入を希望される方はTEL：06-6711-6377。FAX：06-6711-6378。Eメール：osaka@korea-htr.orgまでご連絡ください。(ソン)

◆行事案内◆

平和と統一の新しい時代を私たちの手で！ 平和・統一フェスタ2018

日時：10月28日(日) 午後1時30分 開場 午後2時 開演

場所：クレオ大阪東ホール(JR京橋駅南口から徒歩約9分)

内容：第1部：文化公演

打舞楽によるチャンゴ演奏・三鼓舞(三面太鼓)

文芸同大阪支部・舞踊部による朝鮮舞踊

建国・朝高吹奏楽部OB・OGによる吹奏楽の演奏

在日同胞青年有志によるサムルノリ・川口真由美さんによるコンサート

第2部：アンサンブル「歌と映像でつづる平和と統一の新しい時代」

チケット：前売り：1000円(当日：1500円) 高校生以下は無料

主催：平和・統一フェスタ2018実行委員会 TEL06-6711-6377



編集後記

韓青の夏期講習会、楽しかったようです。次号の報告も楽しみです。

次号の1面は、南北首脳会談の結果をふまえた紙面となります。ご期待ください。

(ソン)

